

清 友

No. 187

2025 年 3 月

2025 年 3 月 3 日発行

東京清掃労働組合退職者会

〒102-0072 千代田区飯田橋3-9-3 SK プラザ5F

TEL 03 (3237) 9995 FAX 03 (3237) 4541

湯河原梅林と幕岩
(小さくクライマーの姿が)



東京清掃主催の『退職者歓送会』が3月1日、清掃会館で行われました。5年ぶりだった昨年に続いての開催です。
東京清掃多田委員長の「ねぎらいの言葉」、退職者会岡澤会

東京清掃退職者歓送会
同じ時代を歩んだ仲間とともに

退職者に花を贈呈



坂本浩明さん
(玉川・再任用満了)



土屋 啓さん
(荒川・再任用満了)



退職者会
岡澤会長



東京清掃
多田委員長



森谷浩司さん
(事務局・再任用満了)



江森秀絵さん
(玉川・定年退職)



森田裕二さん
(港・定年退職)



鈴木唱司さん
(蒲田・定年退職)

長「あいさつ」に続き、西村副委員長が「カンパイ」の音頭をとり、歓談に入りました。
大いに笑い楽しい会に
一昨年までの中断が影響して

会員拡大のお願い

昨年から公務員の定年延長が適用され、今年の定年は、「昨年定年延長した61歳の方」と「今年特例措置により60歳で辞める方」が対象です。定年制度が複雑化し、退職者会への勧誘も難しい時代になりました。東京清掃各支部においては、退職者会への加入説明を精力的に行っていただきたいと思います。
また、会員の皆さんにも、お知り合いで未加入の退職者に、会のことを伝えていただくようお願い致します。退職者会を大きくすることが、高齢者・退職者の生活基盤拡充の道を切り拓くことになるからです。

いるのか、参加者は少なかったのですが、今年の退職者は、ボス支配の保守的な職場を知っている世代でもあり、区移管や災害対策などを含め、昔話しには事欠きません。謝辞もそれぞれ多彩でした。また、退職者紹介コーナーなど、笑いを誘う企画もあり、楽しい会になりました。そして、早速、複数の方に会へ加入していただくことになりました。ありがとうございます。

国立演芸場寄席2月中席を鑑賞

落語っやっぱり面白いですね

昨年は「大衆演劇」を鑑賞しましたが、今年は「落語に戻そう」ということになりました。

国立演芸場は、建て替えのため閉鎖していますが、会場を借りて『寄席』を興行しています。

2月13日、千代田区立内幸町ホールで開催された『2月中席』を鑑賞、16名の参加でした。

彦いちはずが、絶品でした

出演者と演目は別記の通り、やっぱり駒治は「鉄道落語」、甚語楼、一蔵、文楽は古典をアレンジ、なかなか聴かせるなどと感心していると、注目の5代目猫八に、我らの世代には懐かしい一龍齋貞鳳と三遊亭小金馬



林家彦いち

出演者と演目

林家彦	追っかけ家族
林家八楽	(切り絵)
古今亭駒治	マナー車掌
柳家甚語楼	松曳き
～仲入り～	
春風亭一蔵	堪忍袋
古今亭文楽	安兵衛狐
江戸や猫八	(ものまね)
林家彦いち	という

(後の金馬)の3人で演じた『お笑いさん三人組』の猫八は3代目。猫八といえば鳥のものまね、孫の5代目にもしつかり受け継がれていました。トリは彦いち、さすが、まさに絶品、どんどん引き込まれ、堪能しました。やっぱり落語は面白いですね。

来年も落語鑑賞を予定

参加者の感想を踏まえると、来年も落語鑑賞がいいのかなと思いますが、今回の計画段階では「よしもと」も候補に上がっていました。皆さんのご意見をお聞かせください。

3月～4月の主な行事と行動予定

●さようなら原発全国集会

*日時 3月8日(土)

*場所 代々木公園B地区

(デモ) 外苑前

●マーチ・イン・マーチ25

*日時 3月9日(日)

*場所 上野水上音楽堂横

(デモ) 御徒町公園

■退職者会「学習交流会25春」

*日時 3月10日(月)

*場所 13時15分開会

*テーマ 清掃会館地下ホール

*講師 国会情勢と政局(仮題)

*懇親会 染裕之さん

*懇親会 学習会終了後実施

◆東京清掃第95回定期大会

*日時 3月16日(日)

*場所 連合会館

*傍聴は要事前連絡

●3・19国会議員会館前行動

*日時 3月19日(水)

*場所 18時30分

*会場 衆院議員第二会館前

■退職者会「お花見ウォーク」

*日時 3月28日(金)

*場所 飛鳥山公園

*集合 10時、JR王子駅

中央口前

*参加費 2000円

◆清掃・人権交流会「草加・吉見フィールドワーク」(予定)

*日時 4月13日(日)

*参加費 8時15分 清掃会館前集合

*参加費 2千円程度で検討中

*参加申込 先着順

●4・19国会議員会館前行動

*日時 4月19日(土)

*場所 14時00分

*会場 衆院議員第二会館前

4月末から5月の主な行動

*4月26日(土)

*中央メーデー(代々木公園)

*5月1日(木)

*日比谷メーデー(日比谷野音)

*5月3日(土・休)

*憲法集会(有明防災公園)

*5月12日(月)

*退職者会「品川フィールドワーク(品川宿・東海道)」

*5月19日(月)

*9条改憲NO!5・19国会議員会館前行動

*5月23日(金)

*狭山事件の再審を求める市民集会(日比谷野音)

※詳細は4月にお知らせします。

3月11日

学習交流会
まだ参加申込み可能

3月の学習会は「政治課題」がテーマです。現在、通常国会が開かれています。自民党一強の時代、国会は全く軽視されて

いきましたが、少数与党下、予算の修正が議論されるなど、国会本来の姿が垣間見られます。

今国会で議論されている主な

▼開催日 3月11日(月) 13時15分開会
▼テーマ 少数与党下の国会情勢と政局
▼講師 染裕之さん(平和フォーラム共同代表)
▼会場 清掃会館地下ホール
※学習会終了後、懇親会を行います。

課題の審議状況から今後の政局までのお話を聞き、政権交代へ繋げる道を模索したいと思います。是非参加ください。

3月28日 飛鳥山公園 満開の桜とランチ宴会

今年の「お花見ウォーキング」は「飛鳥山」が舞台。江戸時代からのサクラの名所です。各種のサクラが咲きますから、開花が早まっても遅れても、大丈夫です。



サクラにつきものの「宴会」は、王子駅付近の「とある食堂？」で行います。

思いっきり春を楽しみましょう。申込み受付中です。是非、参加ください。

▼開催日 3月28日(金)
▼場所 飛鳥山公園
10時/王子駅中央口集合
▼宴会 「とある食堂」でランチ宴会
▼参加費 2,000円
(アルコールなしの方は1,000円)

5月12日に
フィールドワーク

春の「フィールドワーク」は、「品川宿・旧東海道と部落差別の歴史」がテーマです。

開催日は5月12日(月)です。実施内容は現在検討中。概ね2時間程度見学をして、ランチ会を行うという最近定例化している方法で実施するつもりです。詳細は来月お知らせします。予定に入れておいてください。

6月14日に
定期総会

第17回定期総会を、6月14日に清掃会館で開催します。

総会議案と参加案内は、5月初めに差上げますが、例年同様10時15分開会を予定しています。また、昨年5年ぶりに再開した総会後の懇親会も行います。今のうちから、日程調整しておいてください。

清掃・人権交流会
「草加・吉見」
フィールドワーク

◆日時 4月13日(日)

◆実施内容(予定)

8時15分 清掃会館前集合
バスで現地へ移動

①草加市皮革産業見学・体験
②吉見百穴・中島飛行機地下工場跡見学(朝鮮人強制連行)

③和名村被差別部落調査
◆参加費 2千円程度を予定

※内容はまだ検討中とのこと。

◆参加申込 押田幹事または

東京清掃へ連絡→先着順です
ので、申し込みはお早めに。



吉見百穴・中島飛行機地下工場跡

二重被爆3世原田小鈴さんから学ぶ

2月7日、東京清掃人権啓発推進担当者会議学習会が「二重被爆3世原田小鈴さんから学ぶ」をテーマに開かれました。

講師の原田小鈴さんは、お話しの際、「自分のこととして感じてほしい」と言いました。被爆者・被爆家族の想いがここに凝縮されていると思います。

被爆者・家族が背負うもの

広島、長崎で二重被爆した山口彊さんの孫で、長崎で育った。

長崎は、16世紀に南蛮外交が始まり、キリスト教会が多く、中国文化もあり、「和華蘭文化」が栄えた街だ。曾祖父がロシア系ということもあり、異文化を受け入れる気質の下に育った。

長崎では被爆のことを学校の授業で教えており、6歳の時、祖父から被爆体験を聞いた。

三菱重工で働いていた祖父は8月6日、仕事先の広島で被爆、爆発音と爆風を浴びて一瞬気絶、キノコ雲が見えて空は暗くなり、やがて黒い雨が降った。街は焰に包まれ、川の中は死体

が筏のようになっていた。全身火傷をし、包帯ぐるぐる巻きの姿で自宅のある長崎へ帰り、8月9日、長崎で二重被爆した。

長崎には、爆心から500mの浦上教会に、被爆で焼け爛れ頭部だけが残ったマリア像がある。祖父は「マリアを見れば話をするより分かる」と言っていた。被爆者に対する偏見と差別があるので、『被爆者健康手帳』の交付を拒否する人も多い。二



二重被爆3世原田小鈴さん

重被爆者は160人位いたが、恥として公表しない人もいる。被爆後生き延びても、後遺症に苦しむ。おじは60歳前に全身癌で死に、母は今も白血球の数値が安定しない。被爆家族はそういうものを背負って生きて来た。

祖父は、「二重被爆しても長生きできている」として核兵器使用の理由にされたくない、と90歳までは公の場では語らなかったが、最後は、93歳で死ぬまで積極的に語り部をやった。

被爆の実相を知ることが大事

祖父の死後、学校等で被爆体験を語り継ぐ活動をしている。

また、広島と長崎に原爆を投下した爆撃機に両方とも搭乗した唯一の乗員の孫、アリ・ビーザーさんとともに非核の運動をしており、国、人種を超えたつながりを進めている。

被爆者の平均年齢は85歳を超える。被爆者が誰もいなくなる時代を迎えることになる。

被爆者・家族は戦争に翻弄されてきた。あの戦争は何だったのか、深い傷を残している。被爆の実相を知ってもらうことが非核につながっている。

若い世代の活動は宝だ

講演終了後の質疑の時間で、学習会に参加していた『高校生1万人署名活動』のメンバーとの交歓が行われました。その中で原田小鈴さんが「若い世代の活動は長崎の宝だ」と発言したことが印象的でした。



『高校生1万人署名活動』のメンバー

深夜の戒厳令、あの日、韓国で何が

昨年12月3日夜、「韓国で戒厳令」という衝撃のニュース。多くの市民と野党系国会議員の抵抗により6時間で解除されたことを、私たちは大いに学ぶ必要があると思います。

一方、国会の憲法審査会で「だから緊急事態条項が必要」という倒錯した論が出ています。

2月11日、平和フォーラム主催の『民主主義と憲法を考える』深夜の戒厳令・あの日、韓



国で何が』の集会が開かれ、韓国仁荷大学法科大学院教授イ・キョンジュ(李京柱)さんが「今回の戒厳令の特徴点」などを、名古屋学院大学教授飯島滋明さんが「緊急事態条項導入の危険性」などを報告しました。

戒厳令は人権を毀損し、民主主義を破壊する

イ・キョンジュさんは「12月3日の戒厳宣布は『マジ?』という感じだった。40年前で最早

なくなったことか」と冒頭で話しました。過去の戒厳は「民主化運動弾圧が目的」だったが、民主化により改正され簡単にはできなくなった。「国務会議(閣議)で決め、国会通告が必要」とされている。今回、国会が封鎖され、国会

議長も塀を乗り越えて国会内に入る様子が放送された。要件を満たしていないため、今回の戒厳は違法、法治国家の原則に反する。また、違法な戒厳に軍を投入したことは「内乱罪」にあたり、ユン・ソンニョル(尹錫悦)大統領は重要な違憲を犯したため、大統領弾劾要件に該当する。

1980年光州事件の際の戒厳と違う点は、ユーチューブなどを通じてみんなが分かっていたこと、映画『ソウルの春』で「クーデター」の恐ろしさを市民が認識していたこと、軍人に迷いがあり、市民に銃を向けられなかったことなどが際立った。

今回の戒厳の背景は、保守層の社会勢力交代に対する危機感だと思う。戒厳を6時間で解除させたのは、国会の早急な対応と市民の迅速な結集による。1980年の教訓が生きた。

戒厳は人権を棄損、民主主義を破壊する「トロイの木馬」だ。

緊急事態条項が不要なのは、この間の災害対策で明らか
続いて、飯島滋明さんが報告。

ドイツのワイマール憲法を追い込んだのは「緊急事態条項」。共産だけでなく社民も拘束されて、中道的新聞も発禁に。

フランスでも1961年に緊急権発動。48人が警察に殺された。権力者が「緊急事態」と言い出すと危険、人権が蹂躪される。国会の憲法審査会で、韓国の非常戒厳を口実にした改憲論議が出ている。維新の馬場など。

玉木(国民)は「緊急事態のカテゴリーは武力攻撃、内乱・テロ、大規模災害、感染症大蔓延を想定、まともなものをつくればいい」と主張。これに對しれいわ櫛淵は「今でも立憲主義は機能していない。憲法53条に基づき国会召集がたなざらさられ、安倍は118回もウソ答弁、国会にウソをつく日本で緊急事態条項のルールが守られる証はない。総理事だ」と反論。正しい。緊急事態条項が必要ないことは、コロナの対応、最近の自然災害の対応で明らかにされた。国が示した指針は全ての外れ、地方が国の指示通りやっていたら被害はもっと拡大したと言える事例が沢山示されている。政府は全くわかっていない。

敗戦80年へ憲法・沖縄・日中関係から日本の今を問う

2月20日、文京区民センターで『懐憲NO！96条改悪反対連絡会議』主催による内田雅敏さんの講演会が開催されました。

戦後80年、内田さんも80歳

ご存じと思いますが、内田雅敏さんは、社会活動をする弁護士で、『戦争をさせない1000人委員会』の事務局長です。

集会は、内田雅敏さんとともに共同代表である二瓶久勝の挨拶で始まりました。二瓶さんは「最近の物価高、政党の動き」などを取上げ、とりわけ「4年間で43兆円の軍事費使用予定」を厳しく批判しました。その後、内田さんの講演に移りました。

彼は1945年生まれ、「ちょうど終戦の年であり、戦後80年となるが、それが自分の年齢でもある」という自己紹介からお話しは始まりました。

謝罪なしの『日朝基本条約』

1965年は『日韓基本条約』が批准された年で、こちらは60年となる。この時は日本の植民

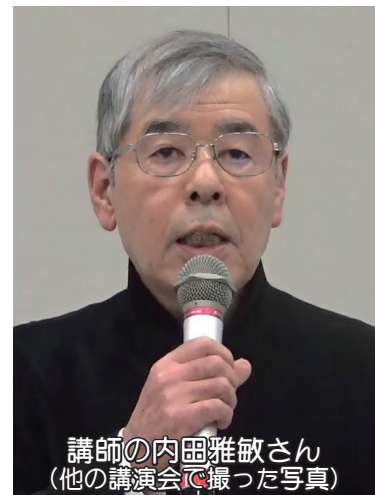
地支配の謝罪はなかった。ようやくお詫びが明記されたのは1998年に小淵恵三と金大中が共通の決意を宣言した『日韓共同宣言』に至ってからである。それゆえ、『日韓基本条約』で決められた賠償金は、現在で約1兆円であったが、日本政府は物納をしたのみで、庶民には届いていなかった。

民主化運動踏まえた韓国憲法

尹大統領の戒厳令があつて、韓国の憲法を初めて読んだが、驚くことに、そこには「3・1独立運動」や「4・19民主理念」が記され、「平和的統一を推進する」とされている。韓国の憲法は、長い民主化運動により築き上げたものといえる。

尖閣棚上げ・先送りは了解済

『日中共同声明』から離脱せよ」と論じたのは、退官自衛官の元陸将小川清史である。「台湾有事となれば日本が傍観者の立場ではいられない。台湾を国家として承認していないと存立



講師の内田雅敏さん
(他の講演会で撮った写真)

危機事態とならないので、法律改正が必要となる」と。

それでは1972年の『日中共同声明』とはどういうものか。次の4項目が中心である。

- ①日中は長い友好の歴史がある。
- ②日本が中国国民に与えた損害と責任を痛感し深く反省する。中華人民共和国は今後の友好関係樹立のため損害賠償を放棄する。
- ③台湾は中華人民共和国の一部である。
- ④日中両国は覇権国家にはならない。

『日中共同声明』発出の際、尖閣諸島問題について、田中角栄が質問し、周恩来が応える形で棚上げ、先送りが決まった。しかし、その後、石原都知事

が尖閣問題に首を突っ込み、灯台を作ると言い出し、国有化を仕掛けた。これが問題だった。

「覇権国家にならない」とは鄧小平が言い、当時の中国側の強い決意であった。退官自衛官が覇権主義を感じるのなら、この日中条約に基づいて交渉すべきである。そもそも制服組が国会答弁や交渉を求めるのは、文民統制をないがしろにするものである。退官したからと言って許されるものではない。

沖縄戦の反省を生かせ

沖縄は第2次世界大戦で日本の犠牲にされた。現在も、辺野古の問題や、沖縄の「最後まで敢闘し悠々の大義に生くべし」として降伏を否定した牛島司令官が崇拝されているのを見ると、同じことが繰り返されているとしか言えない。

講演終了後盛大な拍手

内田さんの力強い講演が終わったのち、「80歳ということもあるので、この会の共同代表を辞める」という報告があり、惜しまれながらも盛大な拍手で送られました。(岩田正隆記)

「アジア清掃労働者集団設立総会」に参加しました

清掃・人権交流会会長 押田五郎

昨年12月14日～15日にネパールの首都カトマンズで『アジア清掃労働者集団設立総会』が開催されました。主催は南アジアの被差別民の解放を目指すインド、ネパール、そしてアメリカの人権団体。その呼びかけの中心はインドのマニユアルスカベンジャー（手作業で汚物処理をさせられてきた被差別民）のリーダーであるベズワダ・ウィルソンさんです。



主催者3団体の代表とがんばろう！

ベズワダさんは昨年5月に来日し東京清掃労組で講演。彼はインドだけでなくアジアや世界の清掃労働者の解放をめざすために南アジアの清掃労働者の会議を持つので日本からも来てほしいと、東京清掃労組の多田委員長と清掃・人権交流会の押田に声をかけてくれたのです。

作業衣・安全靴を抱えて参加

12月14・15日にカトマンズで行う8か国の清掃労働者の国際会議の招待が届きましたが、同日に東京清掃の自治研集会有るため多田委員長は参加不可能となり、急きよ私が日本の清掃労働者として参加することに。

私としては、日本の清掃労働者が危険な労働を安全作業に変えてきた闘いや、差別との闘いを訴えることに主眼を置き、元いた職場の協力で作業着や安全靴などの一式を抱えて出発しました。

差別的労働の実情に怒りが：



ごみ出しは道の端に並べて（カトマンズにて）

会議の参加国はインド、ネパール、バングラデシュ、ブータン、日本、そしてオンライン参加のスリランカ、パキスタン、韓国の計8か国。主催者の一員としてアメリカからも参加がありました。

会議では各国の清掃労働者が、仕事の実情、事故やケガの実態、給料の遅配や死亡事故があっても保障のない状況などについてプレゼンテーションを行いました。その怒りや悲しみの報告には、多くの人が共感しました。

後半では、日本から持参した作業服や安全用具一式を披露し、今後みんなの国にもお渡ししたいと表明して大歓迎されました。この約束は果たさなければなりません。



会議の合間に参加者とパチリ後ろで手をあげているのが私

アジア清掃労働者の連帯強化を

会議は最後に、今後さらに東南アジアの国々の清掃労働者に呼びかけ、「アジア清掃労働者集団」を広げて清掃労働者の国際連帯を強めて行こうと確認。差別と貧困、不当な労働条件から解放することを目指すという誓い合いました。

清掃労働者の国際連帯は確実に一歩踏み出しました。この歩みに日本の清掃労働者としてしっかり関わっていく必要があります。

ウクライナに平和を！

核兵器を使うな、原発に手を出すな

ロシアのウクライナ侵攻から丸3年の2月24日、日比谷野音で「ウクライナに平和を！」を訴える集会が開かれました。

原発は攻撃対象になる！

集会では、染裕之平和フォーラム共同代表などが「ロシアのウクライナ侵攻」や「トランプの対応」を非難し、『原子力資料情報室』と『チェルノブイリ子供基金』メンバーは「ザポリー



ジャ原発周辺では、ロシアによる占領が長期化し、戦闘行為が頻繁に行われている。戦争で原発が攻撃対象になる危険性が明らかになった」「チェルノブイリ原発事故で、影響は次世代、その次の世代に及ぶことが明らかにされた。福島の子どもたち」に甲状腺がん被害がある」と、原発の危険性を訴えました。

米露頭越し停戦交渉反対！

最後に『さようなら原発1000万人アクション』藤本泰成さんは「戦争で死ぬのは無辜の民だ。トランプとプーチンのウクライナ頭越し停戦交渉は許せない。ウクライナ市民の声を反映するべきだ。トランプがウクライナにレアアース等の権益譲渡を迫るのは盗人猛々しい。やるべきはウクライナの復興支援だ。平和のため、精一杯運動を続けよう」と決意を表明。その後、銀座デモに出発、「ロシアのウクライナ侵略を許すな！」等をアピールしました。

軍拡ではなく暮らし優先の予算を！

国会の予算審議が山場を迎える中、2月の『総がかり19日行動』が行われました。

国会審議の変化を実感

主催者挨拶で染裕之共同代表は「与党過半数割れの状況下、予算の修正論議が行われている。数の力で強行されたこれまでの状況を変えたのは、市民と野党の共闘の成果だ。高額医療費自己負担限度額引き上げは凍結が白紙撤回すべき。軍拡ではなく、暮らしのための予算



にさせよう」と強調しました。

課題山積、運動強化を

市民からのアピールで、八王子市で毎週金曜日にデモを行っている『金八デモ』の西田照子さんは、環境省が進めようとしている福島原発放射能汚染土の道路・農地・堤防等での再利用に触れて「放射性物質は集中管理すべき。管理基準も事故後80倍に改悪された。放射能汚染土を全国にばら撒き、放射能が空中に飛散する」と批判、『在日ビルマ市民労働組合』のミンスイさんは「ミャンマーが特殊詐欺の拠点になった原因は、軍事クーデターでひどい国になったことが引き金だ。どこの国の戦争も止めるためがんばろう」と、『市民連合フェミブリッジ』の西山千恵子さんは、「日本のジェンダーギャップ指数は146か国中118位。夫婦別姓は動こうとしているが、婚外子差別、男女賃金差別等問題山積み、国連女性差別撤廃委員会への拠出金停止は許せない。女性たちの運動を強化していこう」と訴えました。